原 敬 略 年 譜

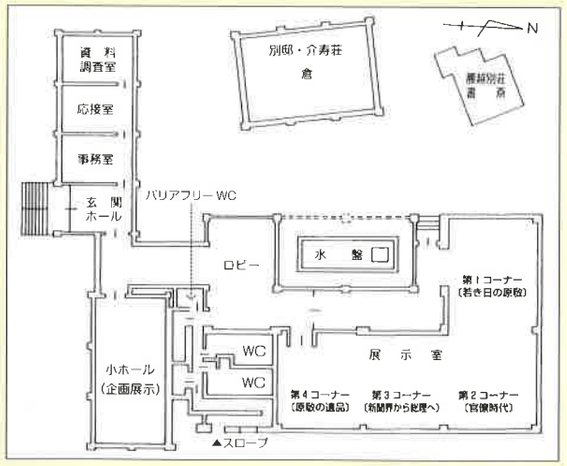
安政 3年（1856）	2月9日（旧暦）岩手郡本宮村（今の盛岡市本宮）に盛岡藩士の直治・リツ夫妻の次男として生まれる。幼名・健次郎。
明治元年（1868）	9月　戊辰戦争で盛岡藩敗れる。(12歳)
同　3年（1870）	1月　藩校「作人舘」に学ぶ。
同　4年（1871）	12月　上京。翌年「共慣義塾」に学ぶ。
同　5年（1872）	7月　名を敬と改める。
同　7年（1874）	4月　フランス人宣教師エブラルの学僕をしながらフランス語を学ぶ。
同　8年（1875）	6月　平民として分家独立。（19歳）
同　9年（1876）	7月　司法省法学校104名中2番で合格。
同　12年（1879）	7月　『露西亜国勢論』を翻訳出版。
	11月　郵便報知新聞社に入社。
同　15年（1882）	11月　外務省入り。(翌年11月、天津領事)
同　18年（1885）	12月　外務書記官としてパリ公使館に着任。（19年、代理公使）
同　22年（1889）	4月　農商務省参事官、後、秘書官。
同　23年（1890）	5月　農商務大臣陸奥宗光の秘書官。
同　25年（1892）	8月　外務省通商局長。外務次官を歴任。
	9月　芝公園7号地に私邸を取得。
同　29年（1896）	6月　特命全権公使として朝鮮に赴任。
同　31年（1898）	9月　大阪毎日新聞社社長。
同　33年（1900）	12月　立憲政友会総務委員兼初代幹事長。
	12月　第4次伊藤博文内閣の逓信大臣。
同　34年（1901）	7月　大阪北浜銀行頭取。
同　35年（1902）	8月　盛岡から衆議院議員選挙に初めて出馬し当選、以後8回連続当選。
同　36年（1903）	3月　大阪新報社社長。
同　38年（1905）	4月　古河鉱業株式会社副社長。
同　39年（1906）	1月　第1次西園寺公望内閣の内務大臣。（同44年第2次西園寺内閣、大正2年山本内閣で内務大臣を歴任）
同　42年（1909）	8月　盛岡古川端に別邸・介寿荘を新築。
大正 3年（1914）	6月　第3代政友会総裁。（58歳）
	11月　鎌倉腰越に別荘を新築。
同　6年（1917）	4月　第13回総選挙で政友会が第一党。
	9月　戊辰殉難者五十年祭で祭文を読み、賊軍の汚名を雪ぐ。
同　7年（1918）	9月　第19代内閣総理大臣となり、日本初の本格的な政党内閣を組織。(62歳) 高等教育機関、鉄道網の整備、皇太子外遊に尽力。
同　10年（1921）	11月4日　東京駅で暗殺される。(65歳)

▲原敬生家
原敬の祖父直記が嘉永3年(1850)に建てたもので、現在は当初の5分の1程度が残っている。(盛岡市指定有形文化財)

◀鎌倉腰越別荘の書斎
原敬が激務の合間に句作や思索にふけったといわれる別荘の書斎を昭和63年（1988）敷地内に移築復元。8畳1間で約27㎡。

別邸・介寿荘の倉▶
赤レンガ総2階の重厚なこの倉は、大正3年（1914）盛岡市古川端（現大通3丁目）に建築された。以来66年間同地にあったが、昭和55年（1980）記念館敷地内に移築復元した。「原敬日記」もこの倉に収蔵されていた。

原 敬 記 念 館 配 置 図



利用の案内

■開館時間…午前9時から午後5時まで
（入館は午後4時30分までです）
■休 館 日…月曜日（祝休日の場合その翌日）・年末年始
■入 館 料…個人　一般 200円　小・中学生 50円
団体　一般 120円　〃　30円
（団体入館料は、30人以上の団体に適用します）
※障がい者手帳をお持ちの方、盛岡市に住所を有する65歳以上の方は、確認できるものを提示いただくと無料です。
■交　通
〈バス〉
【盛岡駅　東口10番】
○盛南ループ200（下川原回り）「原敬記念館前」下車
【盛岡駅　東口13番】
○飯岡十文字経由矢巾営業所「原敬記念館前」下車
○イオンモール盛岡南行「もといち泉公園前」下車徒歩5分
【盛岡駅　西口24・25番】
○イオンモール盛岡南行「杜の道北」下車徒歩5分
〈車・タクシー〉※無料駐車場有り
○盛岡駅より約5分　○盛岡I.C及び盛岡南I.Cより約10分

■案内図

記念スタンプ

原敬記念館

HARA KEI MEMORIAL MUSEUM

（公財）盛岡市文化振興事業団　**原敬記念館**
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮四丁目38-25
TEL (019)636-1192　FAX (019)636-1185
[　HP　] https://www.mfca.jp/harakei/
[Twitter] https://twitter.com/harakei_museum

[HP]　[Twitter]

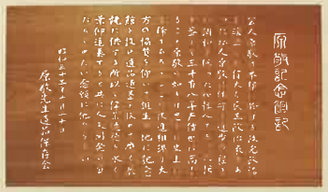
ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C023138
R4.1

原敬記念館

原敬記念館は、平民宰相と呼ばれた原敬の業績をしのび、生家の保存を図るとともに、原敬ゆかりの資料を保存・展示するため、原敬先生遺品保存会によって建設され、昭和33年（1958）に盛岡市に寄贈されて開館。その後２度の展示室増築や倉及び書斎の移築を行い、現在に至っている。

▲原敬の紹介映像
原敬100回忌を記念して同事業実行委員会より寄贈されたもの。原敬の生涯を計30分ほどの映像で知ることができる。

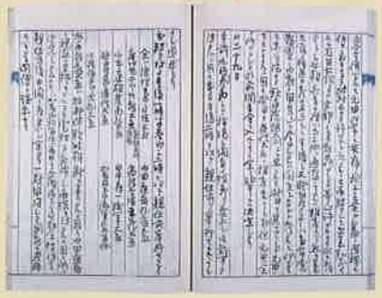
▲原敬句碑
「わけ入りし霞の奥も霞かな」句は大正10年（1921）作。碑は昭和33年（1958）に設置。

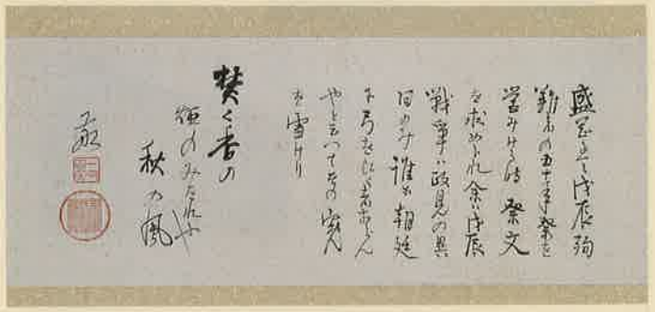


▲扁額・原敬記念館記
昭和33年（1958）に記念館が建設された際、館の設立の趣旨を記したもの。撰文鈴木彦次郎、書太田孝太郎による。

▲17歳の原敬
15歳（明治４年）の時、遊学のため上京。途中送金途絶により、明治５年(1872)11月フランス人宣教師マリンの経営する伝導師養成所に入所。翌６年（1873）４月洗礼を受ける（洗礼名はダビデ）。

▼原敬日記 原本（一部鉛筆メモ）
19歳から65歳（明治８年４月14日から大正10年11月４日）の遭難の日までの日記83冊（一部鉛筆メモ）。この日記は、明治・大正期の最高為政者の思考と交友、又は政界の隠れた部分を解明する書として、昭和25年（1950）養嗣子貞氏により出版されるや、世評高く“毎日出版文化賞”に輝いた。岩手県指定有形文化財。





▲原敬遺墨
大正６年（1917）９月８日、盛岡の報恩寺で行われた戊辰殉難者の50年祭に出席したのち、祭文をもとに自身の戊辰戦争観を述べたもの。

▲原敬遭難時着用の洋服（複製）

▲愛用品

▲愛用品

▲内務大臣辞令
大正２年（1913）2月20日付。内務大臣を３度歴任し、特に地方行政では大胆な改革を行った。

▲衆議院議員当選証書
明治36年（1903）３月９日付。盛岡から立候補し、連続８回当選した。

原（はら）敬（たかし）

安政３年（1856）に生まれる。15歳の時、上京し勉学に励んだ。新聞記者を経て主として外務省を中心に明治政府の役人となり、井上馨や陸奥宗光にその才能を認められて活躍し外務次官にまで昇進した。

明治30年（1897）外務省を退官して再び言論界に戻り、大阪毎日新聞社長として論説及び経営に腕を振るった。明治33年(1900)立憲政友会の創設に関わり、政治家の道に入って政党政治の確立につとめた。明治35年(1902)、衆議院議員に立候補して以来故郷の盛岡より連続８回当選し、また中央政界では立憲政友会の幹事長から総裁となり、大正７年（1918）９月首相となった。

新聞社時代には署名論文に筆をとる一方、数々の著書を残した。

満19歳から、65歳の兇刃に倒れた当日までの記録「原敬日記」83冊は、学術上の貴重な文献となっている。

趣味として俳句をたしなみ、「一山」や「逸山」の号でその時々の心境を託したすぐれた作品が数多く残されている。